Unnan Community Foundation

Annual Report 2022

2022年度 公益財団法人 うんなんコミュニティ財団 アニュアルレポート

うんなんコミュニティ財団
UNNAN COMMUNITY FOUNDATION

発行元　公益財団法人うんなんコミュニティ財団
〒699-1332　島根県雲南市木次町木次36
TEL・FAX / 0854-47-7787
Mail / info@unnan-cf.org
Web / https://www.unnan-cf.org/

ご挨拶

平素から「うんなんコミュニティ財団」の活動に温かいご支援を賜りありがとうございます。
2022年度も、オールうんなんで取り組む課題から、狭間から聞こえる呟きまで、真摯に耳を傾けて寄り添い、市民の皆様の"こんな雲南にしたい"との思いに満ちたプロジェクトを支援するために、みんなでカンパ事業、休眠預金等活用事業など様々な事業を展開致しました。
現実に立脚して、社会課題解決のための自律的・持続可能な仕組みの構築を図る柔軟な支援活動は一歩ずつ前進しています。

より多くの市民の皆様に親しく認知していただき、小さな声に耳を傾ける「支え合い市民が作る市民のための財団」として未来に向かって共に歩み続ける「うんなんコミュニティ財団」をこれからも宜しくお願い致します。

公益財団法人
うんなんコミュニティ財団
代表理事
郷原剛志



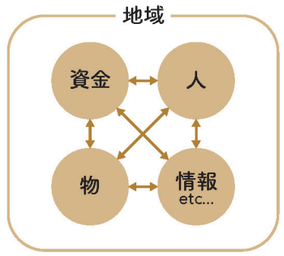
うんなんコミュニティ財団とは？

2020年4月に、642人の志金300万円をもとに設立しました。市民をはじめとした地域の主体が繋がり取り組むこと、地域に根ざすことを大切にした、地域の諸課題解決・価値創造の仕組みです。近年、市民一人ひとりの課題解決を支える意志により全国各地で「コミュニティ財団」が設立されています。

目的

うんなんコミュニティ財団では、**地域のあらゆる主体を結びつける仕組み**となることで**資源の循環を通じて社会課題の解決・改善及び地域の価値創造の取り組みのための基盤充実**を図っています。
地域の将来を左右するような大きな課題からより日常的で身近な小さな課題まで、市民同士で支え合いながら、**市民の自らの手で自在に解決していける未来**を目指しています。

しくみ



地域の中で資源を循環させることで、誰もがやりたいことを実現できる**持続可能な雲南**を作り、地域で支え合います。

主な事業

- 事業指定助成事業（クラウドファンディング）
- 課題共有会議事業
- 基金の設置運営事業
- その他当財団の目的を達成するために必要な事業

目次

02 ごあいさつ・目次
03 みんなでカンパ（クラウドファンディング）
06 2020年度休眠預金等活用事業
10 2021年度休眠預金等活用事業
12 環境プロジェクト
14 会計報告
15 財団が設置する基金寄付者の皆様

2022年度に実施した事業指定助成事業等

みんなでカンパ（クラウドファンディング）

市民のプランを発表し仲間や資金を集める場の企画運営、発表に伴う相談支援、クラウドファンディングのサポート等



目指す状態

- プラン共有発表会を通じて地域の主体が繋がっている
- 諸資源（人・もの・資金・情報）が循環する基盤が構築されている
- プラン共有発表会後、繋がった人どうしで応援し合うことができている

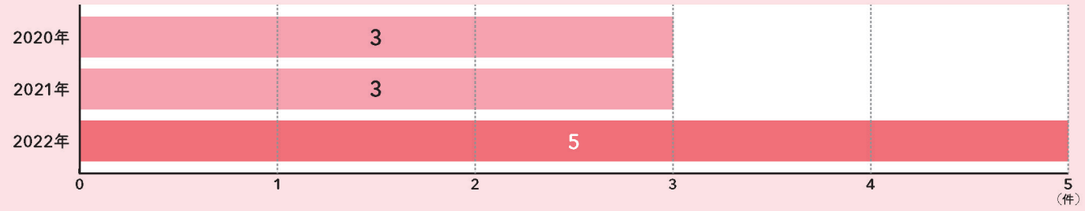
事業の結果

※2023年度にまたがったプロジェクトへのご寄付を含む

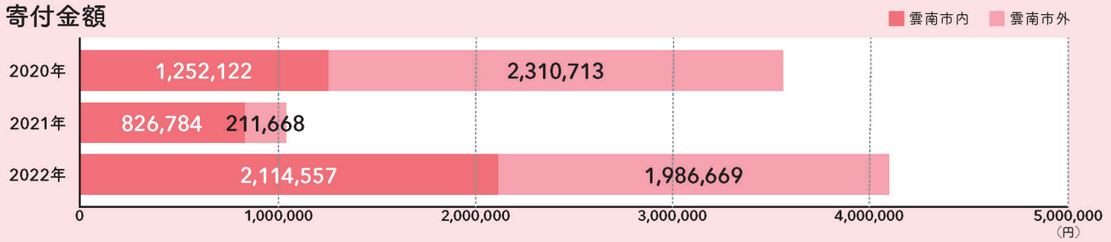
資金調達実施件数	5件
寄付総額	4,101,226円
寄付者総数	625名

寄付推移

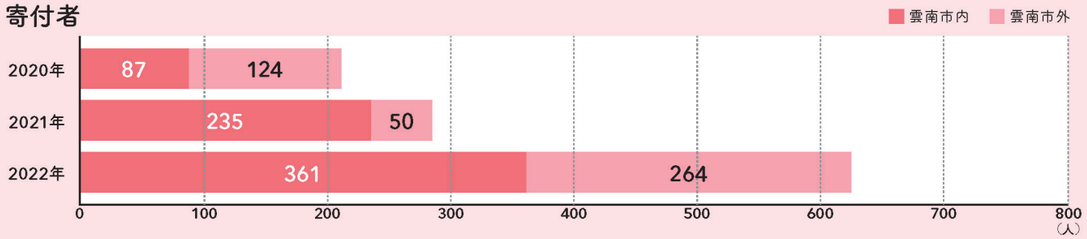
クラウドファンディング実施件数



寄付金額



寄付者



クラウドファンディング実施者

01



希少生物ギフチョウが生息する自然豊かな烏帽子掛けハイキング道を次世代へ受け継ぎたい！

下熊谷地域遺産を守る会

寄付総額 234,432円　寄付者 43名

目的

- 山の機能や生態系への理解や維持をすること
- 自然を感じたり雲南の歴史を学んだりしながら健康維持や体力増進にも役立ててもらう
- 地域間交流や世代間交流により人の繋がりを増やす
- ハイキング道整備を担う人と一緒に活動ができるようになること

助成後の活動・成果

- 除草作業、低木伐採の実施
- 地元の方々との草刈り交流会の開催：参加者12名
  ― 整備を大学生のインターン生と一緒に実施。「来年も参加したい」という声もあり、今後、具体的にどのように遺産を受け継いでいくかに繋げていく。
- 終了ミーティング
- 看板の取り付け（カタクリ見学会、ハイキングイベントを2023年4月に実施）

02



うんなん版産後白書をつくりたい



mama's smile はぐ

寄付総額 1,041,063円　寄付者 152名

目的

- 産前産後の現状と課題の認知
- 産前産後の女性のリアルな声の言語化
- 産前産後の学習・サポートの必要性の認知
- 社会全体で産前産後のママやその家族を支える文化の創出

助成後の活動・成果

- うんなん版産後白書の作成、寄贈（約250部）、内容のHP掲載
- 産後こうなりまんねんカレンダーの作成、寄贈
- 関わる人や課題の認知が増加
  ― カレンダーに記載する産後のあるある川柳をLINEチャットやSNSで募集
  ― 新聞掲載による周知

03



地域の"味方"を増やして、発達症の人たちのみらいのかのうせいをもっとたかめよう！プロジェクト

一般社団法人 みかた麹社

寄付総額 1,124,653円　寄付者 117名

目的

- 課題の周知、コミュニティ作り

学校での学びづらさや過ごしづらさの背景には、LDやHSP、ASDなど発達症があることが多いが、外見からは障害が分かりにくいため特性や対応法の理解が遅れているのが現状。親だけでなく地域の人や祖父母などが気軽に特性や対応を学べる場を作り、味方（理解者）を増やすこと、発達症の子どもを持つ保護者の語り合える場「みかたネットワーク」をつくる。

助成後の活動・成果

- 学校では学びづらい子供たちの学び直しのために、放課後等デイサービス「みかたっこ」を令和5年3月開設
- 2023みかもった講座開催　「柳家花緑師匠と弟子の落語&発達障害トーク」2023年10月7日　チェリヴァホール
- みかたーNETの活動紹介　パンフレット作成

04



雲南市のお米で作ったマッコリで、生産者さんを応援&地域を元気に！

そんさんひょん

寄付総額 1,096,078円　寄付者 122名

目的

- お米の価格の低下で事業継続が難しくなっている水稲農家の課題を解消する一助になること
- 地元の人に改めて地域のすばらしさを感じてもらい雲南を元気にすること

助成後の活動・成果

- 雲南の美味しいお米を高く買って「生マッコリ」を作る
- 雲南市の特産品で市内外・国外へ雲南市のお米の美味しさを知ってもらう活動を実施

05



元気と勇気を届ける落合思誉運応援プロジェクト～第二弾

落合思誉運を応援する会

寄付総額 605,000円　寄付者 191名
※2023年度のご寄付を含む

目的

- 「マウンテンバイクダウンヒル世界一」の夢に向かって頑張ることで、地元の方々・子どもたちに元気や勇気を届ける。

助成後の活動・成果

- 全日本大会の出場、合宿への参加等

うんコミュメッセージ

夢の実現には、地域や環境によって格差があるのが現状です。どのような夢や環境でも、夢の実現に向かって頑張ることができる雲南、夢を応援し合うことができる雲南を目指します。



あなたの「これをやってみたい！」を応援します！

「子どもたちの居場所をつくりたい！」「空き家の活用が何とかできないだろうか？」など、こんなことができたら良いなあと思うことがありませんか？寄付募集のご希望のある無しに関わらず、どんなことでもお気軽にご連絡ください！
同じテーマで活動されている団体のご紹介、助成金のご紹介等もさせていただきます。

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金を活用した事業です

2020年度 休眠預金等活用事業

「休眠預金等活用事業」について詳しくはこちらをご参照ください



01 地域みんなで産前産後・子育てを応援!!

産前産後ケア はぐ

事業の直接対象者　雲南市在住で、妊婦～未就学児の子を育てる女性

助成額 7,456,020円

事業概要

女性が自分らしく生きられる社会、また「産前産後・子育て世代を地域で支える雲南市」として安心して産前産後を過ごし子育てができる地域を目指し、主に下記を実施。

- プレゼントBOX事業
- LINE オープンチャット事業
- ママチャレンジ応援事業
- 妊娠中のママへの教育・啓蒙事業
- 産後ケア事業
- 地域連携事業

結果

▶妊娠早期からはぐと接点を持つことができ、自主組織や企業との繋がりができる

地元企業の協賛品やメッセージの入ったプレゼントBOX申込数（2021年9月～2023年2月）	35件
雲南市内の企業や店舗	13社

▶LINE オープンチャットによって、ママ同士の気軽な相談が生まれ、また関係機関の口コミが起こっている

LINEオープンチャット登録者数	171人
相談件数	41件
地域のお役立ち情報共有件数	426件

▶ママチャレンジ応援事業によって、ママがやりたいことに一歩を踏み出すこと、より多くのママに参加してもらうことができ、より多くのママ同士が顔見知りになっている

ママ寺子屋を開催したママの人数	15人
はぐの事業ボランティア参加人数	延77人
寺子屋の参加人数	109人

成果

▶産前産後に関する相談先の増加

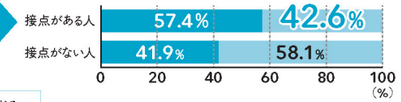
初期値：1～2か所

事業実施後 **平均3か所**（内34%のママが相談場所としてうんなんママ・プレママLINEオープンチャットや当団体を選択。）

▶産後の孤独感の軽減

初期値：孤独感を「よく感じる・時々感じる」74%

事業実施後



グラフ凡例
- 孤独感をよく感じる・時々感じる
- 孤独感を感じない

孤独感を「よく感じる・時々感じる」と回答した人の割合が、はぐと接点を持つことで減る

▶はぐ内のコミュニティ人数と参加者の増加

- はぐ内のコミュニティ数

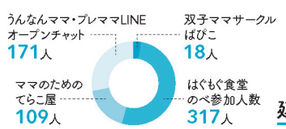
初期値：1（うんなんママ/プレママ LINEオープンチャット）

事業実施後 **4**（双子ママサークルぱびこ・はぐもぐ食堂・ママのためのてらこ屋・うんなんママ・プレママ LINEオープンチャット）

- 各コミュニティ参加人数

初期値：52名

事業実施後



延615名

波及効果など

- LINE オープンチャットでは、2021年7月に起きた豪雨災害時にリアルタイムな情報交換ができ、防災の面でもママ同士の助け合いや不安の解消に役立っていた。
- はぐもぐ食堂では、ボランティアで参加する高校生や大学生が増え、学生と子育て世代が繋がるきっかけ・啓発の機会になった。また、子育て世代だけでなく、子供が巣立った後の女性にとっても繋がりや役割作りの場となっている。

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき、休眠預金等を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まり、「ローカルな総働で孤立した人と地域につなぐ」をテーマに2020年5月から2023年2月まで、市内4事業に助成をさせていただきました。

結果や成果の一部を抜粋してご紹介します。報告書等詳しくは上の二次元コードからご覧ください。



02 個性を育む 創造プロジェクト

3C「夢」club実行委員会

事業の直接対象者　雲南市内の児童・生徒（小学生～高校生）とその保護者

助成額 8,037,372円

事業概要

社会教育における体験活動の機会均等の確保、インクルーシブな地域社会の実現、支援が必要な子どもに対する地域の意識改革、地域拠点づくりを目指し主に下記を実施。

- 社会教育体験の場所としての教室開催（月2回／合計18回）
- 毎月の活動報告のチラシ配布（毎月）
- 交流イベントの実施
- 保護者の話し合いの場・相談の場の設定
- 研修会の実施（①市内拠点交流センター、②指導者及び支援スタッフの質向上）
- 小さな拠点づくり（サテライト構想）
- 社会教育体験プログラムの作成

結果

▶体験会・説明会の開催により直接対象者が体験活動をすることができる

体験会参加者児童生徒数	9名
新規参加児童生徒数	9名
教室参加児童生徒数	38名

▶保護者の話し合いの場・相談の場づくりにより、相談機会や当事業の活動理解を深める機会ができる

体験会・説明会の参加保護者数（新規）	10名
交流会・研修会参加保護者数	30名
相談保護者数	5名

▶指導者及び支援スタッフへの研修会を実施することにより質向上が図られている

研修会参加者数	15名

▶雲南市内の交流センターとの協議：市内6か所

成果

▶直接対象者に当事業の活動が理解されるとともに継続参加、新規参加の児童・生徒数が増加している

	初期値	事業実施後
参加児童・生徒数	37名	38名
継続参加児童・生徒数	ー	27名
新規参加児童・生徒数	ー	9名

▶子どもたちを支援する団体による小さな拠点を設け、子どもたちの体験活動ができている

- 小さな拠点数

初期値：1か所

事業実施後 **6か所**

波及効果など

- 発達段階に応じた体験活動プログラムの実践（インターンシップ）により、中学3年生Iさんの「夢」実現への第一歩が始まったこと。
- 島根県立大学、島根県立大東高等学校との連携の強化（サークル構想）により、県立大学サークル活動の一環として、今後の活動継続が決定した。
- 保護者との話し合いの場をつくることができ、今後相互の関係づくりをするきっかけとなる。



03 地域の応援者を増やして、みらいのかのうせいをもっとたかめよう!

一般社団法人 みかた麹杜

事業の直接対象者　学校での学びづらさや過ごしづらさを抱えている子ども、そのため不登校になっている子ども、保護者。これまで発達症について学ぶ機会のなかった対象の子どもの祖父母、地域の方。

助成額 10,080,000円

事業概要

学校での学びづらさや過ごしづらさをかかえた子供やその保護者が先輩や地域とつながったり、地域の人が発達症について理解を深めてくださったりすることで、子どもたちの未来の可能性を高める地域を目指し、主に以下を実施。

- 拠点整備
- 「みかもった講座」と「あちこち講座」の開催（合計14回）
- 活動拠点での学習会・体験会等（合計24回）
- 親の会の実施（4回）
- 子どもに関わる個別相談（17名）
- 通信制高校のサポート校に在籍するASD高校生が地域の方と触れ合う場作り（12か所）

結果

▶情報発信によって、直接対象者が情報を得やすくなる
— HP・SNS（Facebook、Instagram、LINEオープンチャット）の開設

組織連携数	29

▶当事者の繋がりができ、本音で話したり情報やスキルを学び合ったりすることができる

新たに接点を持った当事者人数	26名

▶講座開催やオープン学習会により発達障害について学ぶことができる

講座・学習会参加者数	延476名
学びの場へ協力する親の人数	16名

▶当事者の地域の人との繋がりができる

通信制高校のサポート校に在籍するASD高校生が参加できた地域活動数	12か所

成果

▶情報発信によって、直接対象者が情報を得やすくなる

	初期値	事業実施後
LINEオープンチャット	0	47名
会員登録者		17名
ケーブルテレビによる発信		3回
ローカルFMラジオに出演		2回
新聞掲載による発信		4回
ポスター掲示（第1回みかもった講座）		300枚
チラシ配布（第1回みかもった講座）		3,000枚
第2～4回みかもった講座		多数

▶当事者が未来の可能性が高まりそうだと感じられる

- 相談等の話しやすさ・満足度

初期値：なし

事業実施後 83.3%

- 自分も先輩や仲間たちのように工夫してみようと思えるようになった子どもの人数

初期値：0名

事業実施後 5名

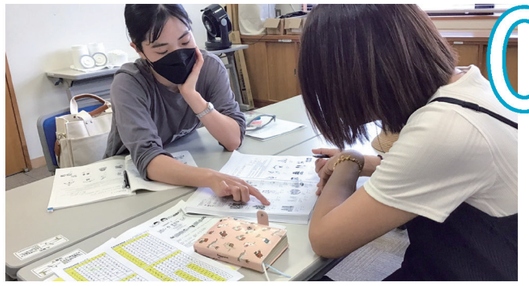
個別相談に来た保護者向けアンケートの問 4(1)「担当者の雰囲気や話の聞き方など、我が子の特性や困っていることを話しやすかったですか？(3)「同じ発達症の子を持つ親同士という立場でも話が聞いて貰えたと思いますか？」に対する「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合。

波及効果など

- 地域で「みかたさん」と呼んでもらえるようになり、（一社）みかた麹杜が発達症支援の活動をしているということを以前より認知してもらえるようになった。
- 大人の発達症の当事者、保護者、職場の方からの相談が入るようになった（5人）
- 柳家花緑氏の講演会を聴いたLD当事者の中学1年生が、「自分を好きになろう」というテーマで論説文にまとめ発表していた。花緑氏をお呼びしたことで、このように当事者の子どもさんに役立った。

What? 「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」事業について

地域では人口減少、高齢化や若者の流出、家族の小規模化・単身化、地域産業の衰退などが起こり、地域社会でのつながりが薄れ、さまざまな分野の絡み合った課題を抱える地域住民が声を出すことが難しい現状があります。孤立状態の地域住民が地域社会とのつながりを感じられ、安心して暮らせる地域を目指し、単独の組織ではなく様々な人や団体が協力して地域全体で問題解決に取り組む活動に支援をさせていただきました。



04 外国人住民のためのうんなん暮らし支援事業

うんなん多文化共生まちづくり協議会

事業の直接対象者　雲南市に在住している外国人技能実習生や外国人住民、ロックダウンで帰国困難な外国人、日本人を配偶者に持つ外国人住民、外国ルーツの子ども

助成額 5,926,291円

事業概要

雲南市で「日本語サロン」や「やさしい日本語講座」を実施することで、直接対象者（外国人住民）が気軽に相談できる相手・場を増やし、自ら情報を得て緊急時に自分の身を守ることができること。また、地域で直接対象者への理解や支援の輪が広がることにより、直接対象者と日本人地域住民の関係が構築され、お互いの住みやすさや安心感につながっている状態を目指し、主に以下を実施する。

- 日本人住民と外国人住民の交流型の日本語サロンやうんなんツアーの実施（合計43回）
- 日本人住民向けの外国人とのコミュニケーション方や理解講座（やさしい日本語講座等）、多文化共生啓発活動の実施（合計10回）
- 外国人住民向けの防災学習会の実施（6回）

結果

▶直接対象者が居住地区の交流センター等で日本語サロン等の地域活動に参加している

参加者数	延166人

▶直接対象者が日本語サロン等の参加により、地域の情報を得ている

情報を得た人数	延86人

▶日本人地域住民が外国人支援に関わる活動（「日本語サロン」や「やさしい日本語講座」、「外国人のための防災訓練」など）に参加している

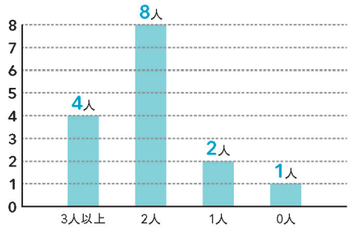
参加者数	延206人

成果

▶外国人住民が事業所や家族以外で気軽に相談できる場所が複数ある

初期値：なし

事業実施後



※回答者により「気軽」「相談」の捉え方にばらつきがみられる。個人の在住期間や背景等の環境が相談先や人数に影響している。

▶日本人住民が直接対象者から相談が来たときに適切な支援先や相談先に繋ぐことができる

初期値：1か所

事業実施後 6回

▶日本人サポーター登録見込み人数

初期値：0人

事業実施後 次年度見込み9人

波及効果など

- 外国人4名が活動に参加したことをきっかけに、日本人住民や他の外国人住民参加者から地元での仕事の紹介を受け、採用につながった。地元企業がこのことを契機に、独自に日本語教室を実施し、その後、他の外国人正社員の採用へとつながった。
- 以前は受講生だった外国ルーツの子どもたちがボランティアとして参加し、サポート側として活躍した。

What? 資金分配団体「東近江・南砺・雲南コンソーシアム」について

休眠預金等活用事業では、実行団体に助成等をする役割として資金分配団体が審査・選定されます。東近江・南砺・雲南コンソーシアムは3市域のコミュニティ財団で構成し、地域的課題を豊かで特色ある地域資源を活かしながら解決を目指す多様な主体、その取組みに対して市民自らが支える仕組みを構築することを通じて「未来資本」を創出し、地域の活性化及び循環共生型の社会づくりを全国に発信することを目的としています。

2021年度 休眠預金等活用事業

東近江・南砺・雲南コンソーシアムによる休眠預金を活用した「草の根活動支援事業」の実施
テーマ「社会的困難者を支えるローカルアクション」

助成期間 2022年4月～2024年2月（2年度）



01 学生が希望を持てるまちのキャリアセンター

一般社団法人umi

事業の直接対象者：地域社会で学び実践したい大学生

内定助成額 5,474,400円

事業概要

将来に不安を抱える大学生に在学中から地域社会と関わる機会を提供することで、学生は自身のキャリアへの不安を払拭し地域社会に希望を持てるように、また大学生に刺激を受けた住民も成長し地域で新たな活動が生まれるように、以下の3つの点で支援していく。

❶学生が自身のキャリアについて気軽に相談に訪れ、雲南市の活動や人を紹介する窓口の設置及びサポート
❷地域と大学生が目指すビジョンを共有し、活動・成長できるプログラム実施（企画・運営）
❸プログラム終了後も地域住民と大学生が繋がり続けられる関係性の構築とそのサポート

活動進捗（2023年3月現在、一部抜粋）

- 大学生向け　キャリア相談窓口の設置
- 窓口での相談を通じ、地域に送り出された大学生：22名
- 継続、新規で大学生を受け入れたい組織数：2件
- 雲南市での活動を通して、大学生が新しく繋がった相談先や人の数：3箇所/人、3人/人
- 活動終了後に大学生が自主的に訪ねた雲南市の場所や人：14箇所



02 地域全体で子どもを育て、子どもが育つ中で大人も交流する「地域まるごと子育て縁」

Community Nurse Company株式会社

事業の直接対象者：雲南市内在住で、近隣に血縁・地縁が乏しいために子育てのサポートを得にくい15歳以下の子どもがいる家族世帯

内定助成額 15,725,600円

事業概要

近隣に血縁・地縁が乏しく、子育てのサポートを得にくい家庭に対して地域交流・教育サービスを提供し、有事に頼りあえる共助のネットワークを構築するために、市内事業者と連携し、主に以下を実施する。

- 交流体験型施設「食の杜」の古民家を基点に、雲南独自のモンテッソーリ教育に基づいた保育や自然体験活動の提供
- 地域関係者との多世代交流イベントなどの開催
- 地域の関係者への挨拶回り、協力依頼など
- 会員制度の構築など

活動進捗（2023年3月現在、一部抜粋）

- 直接対象者と繋がっている：14名
- 連携事業者と、直接対象世帯（潜在受益者）の紹介がなされる関係を築いている
  — 情報共有回数：28回
  — 話し合いの実施回数：17回
- 地域まるごと子育て縁のネットワークがある
  — 交流イベント回数、参加者数：13回、延142名
  — 預かりサービス実施回数、参加者数：78回、延152名

助成期間 2022年4月～2025年2月（3年度）



03 高齢者の移動支援：走れ「よりそい号」

躍動と安らぎの里づくり鍋山

事業の直接対象者：鍋山地区内の65歳以上（特に免許のない人）

内定助成額 7,980,000円

事業概要

時間に縛られずにちょっとした距離の移動からサポートできる柔軟な移動方法として有償運送の計画をたて、移動の不便さから外出困難になる現状を変えていくことで65歳以上で移動に困っている方に主に以下を実施する。

- 専任職員の配置、資格取得
- 有償運送システムの運用、地区内移動支援の実施
- 広報やイベント時の案内、訪問支援等による周知
- 体験会等のイベントの実施

活動進捗（2023年3月現在、一部抜粋）

- 有償運送マニュアル完成
- 運転者の資格を取得している人数：8名
- 有償運送の利用、市民バスとの接続等の窓口の設置
- 有償運送の利用等のチラシポスター掲示：5箇所
- 利用登録者：50名
- 利用者：延288名



04 生活不活発病を防ぐ食の見守りネットワーク

あそびばキッチン・コンソーシアム（幹事団体：あそびばキッチン実行委員会）

事業の最終受益者：雲南市・奥出雲町の高齢者

内定助成額 12,782,500円

事業概要

高齢者の地域における交流機会を増やす活動を地域団体や多様な人材と協働して行う。また、地域内に潜在する生活不活発病やその予備軍の発見を、移動販売等の機会を通じて行う。これらの施策により、雲南市・奥出雲町の高齢者が地域で孤立せず、生きがいや楽しみを感じながら安心して暮らせる地域づくりに寄与するために、主に以下を実施する。

- 対象者同士や専門家等の交流機会づくり、ニーズ把握
- 対象者の活動場所や機会の開拓、サポート

活動進捗（2023年3月現在、一部抜粋）

- 講座による食関係の仕事に従事する人の育成：3名
- 繋がった団体数：14団体
- 当事者に移動販売車で食を届けヒアリング調査を実施：51回、延べ利用者465人
- 高齢男性が参加しやすい講座の運営：2回開催

ワークショップ及び研修イベント等開催事業・調査研究事業

環境プロジェクト

財団設立時の意見や環境計画のアンケートから「環境問題に取り組むことが重要であることが分かるけれど、どのように実践したら良いのかわからない」等の声があり、特定のテーマ（資源循環）に対して勉強会・ワークショップの実施及びその成果について調査しました。



雲南市環境フォーラム（雲南市受託事業）

雲南市では2022年6月に「雲南市脱炭素宣言」が表明されました。2050年脱炭素社会の実現に向けて、1回目は市内の事例紹介や情報交換、2回目は環境活動家の田中優さんをお招きして環境フォーラムを開催し、具体的な行動につなげていくために何をしていくべきか考えました。

開催数
2回

参加者数
延140名



ヒアリング調査（雲南市受託事業）

地域自主組織では以前から環境問題やごみの分別等の勉強会が各地で開催されています。また、ペットボトル、古紙、古布などの資源回収をしている地域自主組織や自治会もあります。地域の中で担われている役割が多いなか、今後一緒に取り組むことができないか等、意見交換もさせていただきました。

市内事業者
15社

地域自主組織
30組織



ごみに関する勉強会、ワークショップ（雲南市受託事業）

市内の地域自主組織や小学校、事業者等と連携させていただき、ごみに関する勉強会を開催し、既にしていることや今後できる身近な取り組みについて考えました。その実践として、コンポスト作成ワークショップの実施や削減した生ごみの量の計測もしました。

開催数
延29回

連携団体
24団体

参加者
延433名

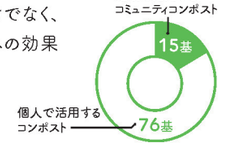


コンポスト設置

（うんなんゼロ・ウェイスト基金設置者：一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン）

「ごみゼロ社会の実現」にむけ、市民が取り組みやすい「生ごみの削減」をテーマに、キエーロコンポスト設置を進めました。単に設置するだけでなく、勉強会等も開催して取り組みの効果を高めました。

設置数
91基（下記内訳）

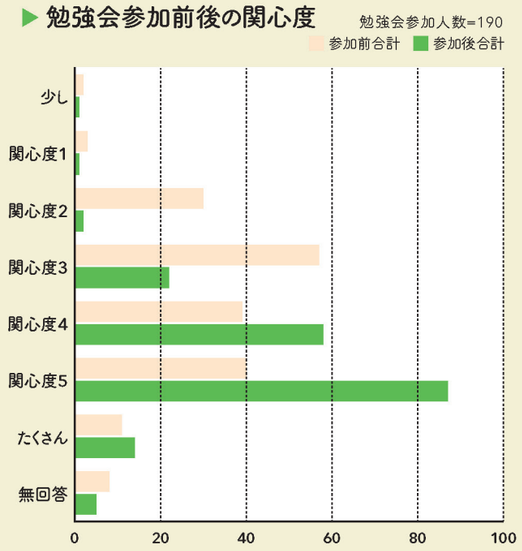


結果

環境への取り組みへの意識向上

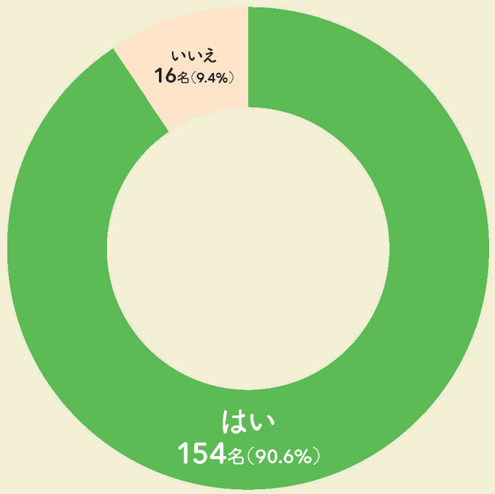
勉強会アンケートや意見交換会の際に、「食べ物などをごみにしないように適量を買う意識を持とうと思った。」「話を聞いて、キエーロコンポストをやってみたいと思えた。」という方や、「以前からキエーロコンポスト1基を周りの2～3軒で活用している。」「既に活動しており、これからも継続してやっていく。」など、畑をお持ちの方を中心に、生ごみ削減の活動を積み重ねておられる方もいらっしゃいました。

▶ 勉強会参加前後の関心度



▶ 明日から何か始めてみようと思うか

アンケート回答者数=170



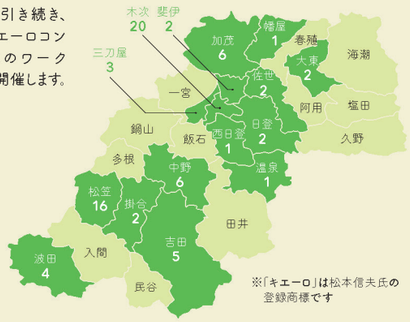
▶ 削減した生ごみの量

削減した生ごみ量（1日1人平均）	150g
削減した生ごみ量（2週間、91基）	約191kg

仮に雲南市民3万5千人が同様に取り組んだとすると、年間約1940トンの生ごみを削減できることになります。

▶ 弊財団で把握しているコンポスト設置箇所

2023年度も引き続き、勉強会やキエーロコンポスト作成のワークショップ等を開催します。



※「キエーロ」は松本信夫氏の登録商標です

会計報告

貸借対照表（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1.流動資産			
現金預金	1,717,282	1,093,835	623,447
未収金	493,373	168,870	324,503
仮払金	613	0	613
流動資産合計	2,211,268	1,262,705	948,563
2.固定資産			
(1)基本財産			
基本財産	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2)特定資産			
特定資産	20,169,596	48,987,403	△ 28,817,807
特定資産合計	20,169,596	48,987,403	△ 28,817,807
固定資産合計	23,169,596	51,987,403	△ 28,817,807
資産合計	25,380,864	53,250,108	△ 27,869,244
Ⅱ 負債の部			
1.流動負債			
未払金	550,695	0	550,695
預り金	84,275	74,197	10,078
未払法人税等	81,000	115,300	△ 34,300
流動負債合計	715,970	189,497	526,473
負債合計	715,970	189,497	526,473
Ⅲ 正味財産の部			
1.指定正味財産			
地方公共団体助成金	100,000	0	100,000
民間助成金	16,056,001	45,231,925	△ 29,175,924
寄付金	7,606,161	6,940,807	665,354
指定正味財産合計	23,762,162	52,172,732	△ 28,410,570
2.一般正味財産	902,732	887,879	14,853
正味財産合計	24,664,894	53,060,611	△ 28,395,717
負債及び正味財産合計	25,380,864	53,250,108	△ 27,869,244

2023年3月31日現在

財団が設置する基金寄付者の皆様 ※敬称略

ガバメントクラウドファンディング（孤立を地域で支えるプロジェクト）

橋宏子　平井佑佳　深田誠　市場雅延　石田侑生　持田篤　土屋悦子　村尾直子　郷原剛志　錦織弘秀　石川幸男　髙橋七子　植田保子　石原恭美　長谷川かづひこ　小山義弘　大坂雅春　鳥谷健二　幸和建設株式会社　匿名希望64名

うんなんコミュニティ財団応援基金

小俣健三郎　佐藤貞之　吾郷廣幸　吾郷康子　岩田和義　小俣三郎　毛利敬典　藤原昌之　石田侑生　岩瀬孔一　岩瀬瑞穂　岡田トミ子　松原俊博　竹下博昭　小林和彦　白石章二　森脇義弘　辰村泰治　多根章生　一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン　よこお小児科　佐世の葉温灸院　匿名希望8名・1団体

ご寄付を募っています

弊財団は皆様からのご寄付を元に運営させていただいております。市内の資金を はじめとした資源循環、また、市外からの資源獲得のために必要な仕組みである「うんなんコミュニティ財団」運営へのご支援ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

ご寄付の方法

(1)右の二次元コードよりご寄付の申込をお願いいたします。

(2)以下a～dの方法にてご寄付をお願いいたします。

a.現金でのご寄付

雲南市木次町木次29番地三日市ラボ内事務局までお持ちください。

b.現金払込でのご寄付

以下の口座にお願いいたします。
ゆうちょ銀行振替口座
・口座記号番号：01340-5-111708
・口座名：公益財団法人うんなんコミュニティ財団

c.銀行振込でのご寄付

以下の口座にお願いいたします。
山陰合同銀行　雲南支店　普通口座
・口座番号：4502554
・口座名：公益財団法人うんなんコミュニティ財団

d.クレジットカードでのご寄付

(1)の寄付申込フォーム送信後、決算サイトのURLが表示されますので、お手続きをお願いします。
※決済手数料3.6%を除いた額が寄付されます。

誠に恐れ入りますが、振込等の手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

(1)寄付申込先